

釣れ釣れなるままに

2014年思い出の釣行記 PART. 7

想像の翼

魔島釣狂



厚賀港のタカノハ

厚賀港のタカノハ

七月十三日（日）早朝、女房を岩見沢駅に送った。孫守りに名寄へ行ってくるというのだ。最近、孫守りというより、孫が婆さんのお守役を引き受けているという風なのだが…。そうなるとする事が無い。釣り大会は台風の為に来週に変更になったのだ。特別警報が出た八号台風は、予報とは違って関東付近で温帯低気圧に変わり北海道に近づく前に消えて

しまった。

最近の釣り新聞ではタカノハの写真と記事が掲載されることが多くなってきた。「北海道のつり」一月号別冊「特集！！THEタカノハ」を手にとってみると、70cmを超えるタカノハを抱えた佐藤氏や菅原氏がページを飾っている。そうなるともういてもたっても居られなくなった。明日は休みだ。午前中に仕掛けを作って、最近の情報から選んだ慶能舞川河口海岸にカーナビをセットした。午後は日ハム・楽天戦をテレビ観戦し、中村勝の好投を見守っているうちにソファーで眠ってしまった。今朝は、FIFAワールドカップ準決勝オランダ対ブラジル戦を見たので睡魔が襲ってきていたのだ。ドイツ対アルゼンチンの決勝戦が明日の早朝に行われるが、これはビデオ予約しておくことにしよう。

エサを買いに行く。カツオ四本に生イソメ。コンビニで晩飯を買い込んでそれを肴に一杯やりながら「笑点」を見ているとまたまた眠り込んでしまった。女房が遅くに帰ってきたのも気づかなかった。

日付が変わって、早朝に向けて出発した。国道二三四号線を走り、安平町から道道一〇号線で厚真町を経由して鷓川IC、高速無料区間を抜けて日高門別IC、そこから慶能舞川河口にはあつという間に着いてしまった。河原の空地に駐車して、まずは川筋に沿って日高線の鉄橋の下をくぐってみた。多少波は高いがやれると判断して、荷物を担ぎ直して浜に出てみると新聞に掲載されていた写真とは様子が違う。大物タカノハをぶら下げた釣り人の背後には慶能舞橋が写っていたはずだが……。その場所は川の中ほどにあたり釣り場とすることはできない。おそらく川の流れが変わったからだろう。河口からテトラ護岸まで300mの区間を歩いてみた。砂浜に一カ所だけ砂利が打ちあがり、波が盛り上がってくるところがあったので、沖に根があると踏んでそこを釣り場に決定した。

まだ夜は明けておらず、作ったばかりのタカノハ仕掛けを遠投して、一本竿立てに竿を立てたものを三組置いた。新聞の写真ではシャケ釣りのように何本もの竿が竿一本分の間隔で並べられてあったが、今日は誰も釣り人はいない。この広い砂浜で一日中自由に移動しながら釣りが出来るのだ。

しかし、アタリは全くない。予備の竿三本を車に取りに行き、明るくなったらと竿立てを立て、竿を置いた。そのうちに辺りがヘッドランプを必要としないほどの明るさになってみると一面の海水が泥で濁っている。この泥水の海で竿を出していたのだ。最近久し振りに降った雨のせいばかりだとは思えない。やはり台風八号の余波で底荒れの状況が続いたのだろう。すぐに片付けて、近くの厚賀港へと移動した。

平日のせいか、最近売出し中のこの港にも釣り人は誰もいない。外防にある赤灯台まで歩いてみた。途中外側にテトラが入っていない所では波が打ちあがっていた。防波堤先端は、少し笹濁りの状態だがやれないことはない判断し、荷物を取りに戻って竿三本を設置した。



外防波堤先端、赤灯台の正面90mから右角斜めに50mの範囲で打ち込んだ

時折、漁船が出ていくが、スピードを落とし、岸壁からは遠回りをしてきているので、スクリューに道糸が絡まって竿をなぎ倒していくようなトラブルは無いようだ。釣り人が道糸沈めを使うなどの配慮しなければならないところを漁業者の方で気を使ってきているのだ。ありがたい。

午前六時頃、札幌からの釣り人が様子を見にやってきた。彼も慶能舞川河口に立ち寄ってみたが泥水で釣りになりそうもなかったのでここにやって来たそうである。そして、防波堤中間あたりのへの字に折れた角でやり始めた。そこもタカノハ場として紹介されていたところで、防波堤先端より釣果が上がると先日報道されたばかりなのだ。しかし、テトラ越しの釣りとなるので、私には無理と判断して先端に入ったのだ。

これだけ人がいないと竿を何本でも出していいだろうと、車に予備の竿を取りに行った。への字岸壁に入った「札幌」氏が竿を出し終えてタモ網を準備しているところだった。私は砂浜に入る予定だったのでタモ網を持ってきていないことを話すと、「先日はここで58cmがあがった。40cm台なら抜き上げることもできると思うが、万が一タカノハ釣れたら自分呼びなさい。」と話してくれた。私が一人ぼっちの時は、万が一タカノハが釣れた場合は、防波堤の付け根にある舟揚場まで引きずって行こうと考えていたので、その言葉がうれしくそして心強かった。

後から、千歳からの釣り人がやってきて、タカノハ釣りのことやこの釣り場のことをしばらく話してから、やはりへの字岸壁の方で竿を出した。アタリは出ないが、最干潮が九

時半だから十一時までの潮込まで頑張ろうと赤灯台を背にして竿先を見つめていた。するとこの日の陽気に誘われて頭がコックリコックリとしてきた。その時、三本の竿先が同時に大きく揺れ出した。三本の竿ともグイグイと竿先が引き込まれていく。慌てて竿尻に駆け寄ろうとしたが灯台の周りにロープが張り巡らされている。そのロープを跨ぐときに躓いてしまって防波堤から身を乗り出してしまった。うわー、おっ、落ちる。夢だった。あらためて竿先を見直すと、三本の竿とも真っ直ぐのままだった。灯台に頭をあずけているうちに眠り込んでしまったようだ。

初めてチョコンチョコンとアタリが出た。しばらく見つめているとまたチョコンチョコンとアタリが出る。竿がくい込まないので竿を手を持ち様子を聞いてみた。そして、そのチョコンに合わせて竿を煽るが魚は乗らずにホンダワラだけがハリに絡まってきた。

また、チョコンチョコンとアタリが出た。道糸を張って様子を聞いてみる。またチョコンチョコンとアタリが出る。それに合わせて竿を煽ると長い昆布がハリについてきた。しかし、その昆布の陰に極々小さな5cmほどのドンコが5cmほどのカツオの横に付いていた。

また、チョコンチョコンとアタリが出た。道糸を張って様子を聞いてみる。またチョコンチョコンとアタリが出た。また、ドンコが悪戯しているのだろうか和竿を手を持ち道糸を張ると仕掛けがスーと手前に寄ってきた。糸ふけを取ろうとするが、その糸ふけが取れずに仕掛けがこちらに近づいて来る。魚がついているのは間違いない。思いっきり竿を煽った。乗った。グインと竿が引かれる。グングンと海底目指して刺さりこむ。防波堤の際に魚が浮いた。タカノハだ。40cmぐらいはあろうか。いや見様によっては50cmにも見える。アブラコやカジカならそのまま抜き上げるところだが、ハリ掛かりした箇所も心配になり、慎重を期してタモ網で掬ってもらうことにした。

くの字岸壁で竿を出している「札幌」氏に声を掛けるが届かない。タカノハを海面で引きずりながら近づいていく。時折タカノハが海中に突っ込んだり反転したりして驚かされるが、「千歳」氏と話し込んでいて気が付かない風だ。大声で呼びかけるとようやく気付いてくれた。気付いてもらうと何だか魚が30cmほどにしか見えない。

兎に角、掬ってもらった。その「札幌」氏がメジャーを出してきて測ってくれた。46cmだった。ハリも唇の硬い所に突き刺さっていた。釣れたのは丁度最干潮から満潮に向かい潮が動き出した時だった。

十一時になった。予定の時間に来てしまったが、もうしばらく釣りを続けることにした。昼からは新たに三名が加わって皆外海に向かって竿を出した。その後、「千歳」氏としばらく話し込んでいたが、その方に釣り場を明け渡して帰ることにした。喉の渇きをこのまま我慢して、夕方はタカノハの肉厚の刺身を肴にビールをキューッとやろう。

家に帰るとすぐに、女房と息子にはワールドカップの決勝戦の結果を俺に教えるなよと言いついて、タカノハの刺身を肴にビールをグイッとあおぎながら観戦した。ボールを持ってパス回し、クロスと多彩な攻撃を仕掛けるドイツ、固く守ってメッシ、ラベッシらのドリブルで打開するという構図で試合が進んだ。前半〇対〇のまま後半戦に入る。ビー

ルから日本酒に切り替える。後半戦に入ってメッシが抜け出しゴールキーパーとの一対一のシーンも作り出すのだがゴールを大きく外してしまった。

女房が思わず言ってしまった。「メッシは結局仕事しないんだから」「おい、その結局ってなんだよ」「え、いや、その、あの一、メッシのことよ」あーあ、俺ってどうしてこうなんだろう。さらにその「結局」を追及してしまって、その後の観戦は味気のないものになってしまった。

釣りと同じだ。結果が分かっていないからドキドキ感が募るのだ。全くアタリの無い中でも、迷い込んだタカノハが偶然俺のエサを見つけて銜え込むかもと「想像の翼」を広げるからこそ粘り強く頑張れるのだ。一枚釣れたら、今度は二枚釣れるかもと……。



赤銀のフロート仕掛けに食いついて来た。裏面は養殖ものとわかるシミがついたものだった

岩見沢釣遊会第4回大会

会員のS氏を尋ねた。平成十三年度年間優勝を果たした彼だが、近年は肺気腫で入退院を繰り返し、愛犬を連れての散歩にも酸素吸入をしなければならない体なのだ。若い時は幅広の扁平タイヤを履いたスポーツカーに乗って、暴走族まがいのスピードで女の子を追いかけて廻っていた彼だが、優しく美人の奥さんを射とめてからは、釣りやスキューバダイビング、温泉めぐりの方に趣味を移していった。今では奥さんの方も仕事を辞めて旦那の看病に尽くしているのだという。玄関先には2000入りの酸素ボンベが置かれ、それを

小分けにして酸素吸入しているのだともいう。それでも釣り竿だけは手放さず、春先は軽乗用車を操って防波堤での釣りを楽しんでいたらしい。

H氏から電話がかかってきた。胆石が胆管に詰まってしまい手術して入院している。大会時の会計業務は出来なくなるので、よろしく頼むというものだ。昔から胆嚢に石が溜まっていたのだが、七十八歳の誕生日を迎えた日に痛み出したのだという。病院に駆けつけると、手術の後で麻酔が効いているのか、昏々と眠り続けていた。奥さんの話では、痛みが治まれば病院を抜け出してでも参加したい風なのだが、家族の説得で今回はさすがに諦めたらしい。

T氏から電話がかかってきた。最近仕事を立て込んでいて、日曜日を使ってでも仕事を片付けてしまいたいので休暇が取れず、残念だが今回は参加できない。しかし、幸いにも北海道に台風が通過しそうな予報で、その時は仕事をすることができないので参加できるというものだ。台風のさなかの荒波の中であっても釣りがしたいのだ。

会長から電話がかかってきた。大会を延期したいとの思いからだ。一週間後に大会を控える中、台風八号が沖縄に接近し、強風・大雨・高潮の特別警報が出た。それだけ大きな台風だということで気象庁では初の特別警報となるらしい。そしてその台風が、大会日の十三日には北海道をも直撃するらしい。そんな中で果たして大会を実施しても良いかどうかというものだ。会長は大会を成功させるために、私の職場に直接訪れたりして打ち合わせを重ね、釣りへの熱き思いを語ってきたりしたのだ。それでも、第一に会員の安全を考えなければならない会長としては当然の判断なのだろう。バス会社には、一週間後の二十日に延期したいとの電話を入れた。その後、気象庁の予報は外れて、関東方面で温帯低気圧に変わり、北海道へ来るまでには消えてしまい、予定した日は素晴らしい天気になったのが恨めしい。延期した日に町内会の行事を仕切らなければならなかったA氏は、もっと恨めしい気持ちだったのではなかろうか。

私は、釣り場を千平、トセツプ、咲梅、目黒のどれかに入ろうと、釣り場地図をコピーしていった。千平には佐々木氏、咲梅には岡、西川氏入る予定で、目黒は、前野氏が同じ溝を狙っているようだ。それぞれにコピーしたものを渡した。

私は美島の湾洞に入ることにした。今回は都合により参加できなかった佐々木忠義氏が前回の大会の折に、次回は美島に下りたいと言っていたこともあり、欠席の電話でも美島の攻め方を聞いていたからだ。また、岡氏が地図を見ながら、今日の潮加減での攻め方を教えてくれた。唯一、トセツプから美島を流すのか、その反対にするかを悩んだ。結局、美島のバス停で下してもらおう。湾洞への下り口に向かう舗装道路をキャスターに荷物を乗せて運んだ。途中、沢のようなところがあり、そこに荷物を置いておそるおそる沢を下ってみた。下りてみると、わざわざそんな急勾配の所を下りなくても荷物を置いたところから河口まで整備された道路が続いていた。初めてのところはこれだから困る。

湾洞の中央で竿を出した。アカハラ仕掛けを近投、カジカ仕掛けを中投、アブラコ仕掛けを遠投した。すぐに近投した竿にアカハラと分かるアタリが出た。20cmほどのアカハ

ラがイソメに食いついてきた。続けて、30cm程のアカハラを4匹あげた。近投の竿を遠投にした。しかし、ハゴトコばかりがかかる。湾洞の中を右へ左へと移動しながら打つもハゴトコしかかからない。

三時の最干潮時に、右の方に出てきた出岬に移動した。波は高いが比較的波が死んでいるところだ。ここでもハゴトコしか出ない。昆布もうねっていかにも大物が潜んでいそうなのだが……。横潤から窓岩へと様子を見に行ったが、波が次第に高くなり打てそうな所はなかった。

六時、私が上がっていた比較的高い出岬にも波が上がってくるようになった。そして、この界限では最初に入った湾洞の奥しか打てるところはなくなった。そこで、タカノハ仕掛に変えて全て遠投にした。しかし、何事も起こるようなことはなく、締め切り時間を迎えてしまった。

今回は、どこの釣り会でも大物が出なかった。私達が審査した車屋ラーメンでは、先に医釣会が審査をしていたが、パツとしたものは見えなかった。私には感じなかったのだが、この日は小さな地震が断続的にあり、それにおびえた魚が岩穴に潜り込んだり、沖に出てしまったりしたのではないかということだ。

優勝者はさすがの岡氏で、咲梅で型物のカジカを2本抜いた。吉井氏も身長賞を取ったカジカに加え、我が会では唯一のアブラコをタカエ浜で抜いてきた。準優勝の佐々木清氏は、千平でタカノハを狙ったのだが、彼の仕掛けには50本ほどのアカハラが食いついただけだった。私は三位に食い込むのがやっとだった。



湾洞右の出岬。大物が潜んでいるように見えるのだが……。



上位入賞者